

## 6. 飼料作物に対する鳥獣害対策の現状と課題



農研機構 畜産研究部門  
動物行動管理研究領域 動物行動管理グループ  
主任研究員 中村 大輔

※ 農研機構（のうけんきこう）は、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構のコミュニケーションネーム（通称）です。

## 鳥獣の過去と現在（主な加害種のみ）

第二次世界大戦前後に野生動物の分布が極端に減少したが、再度拡大傾向

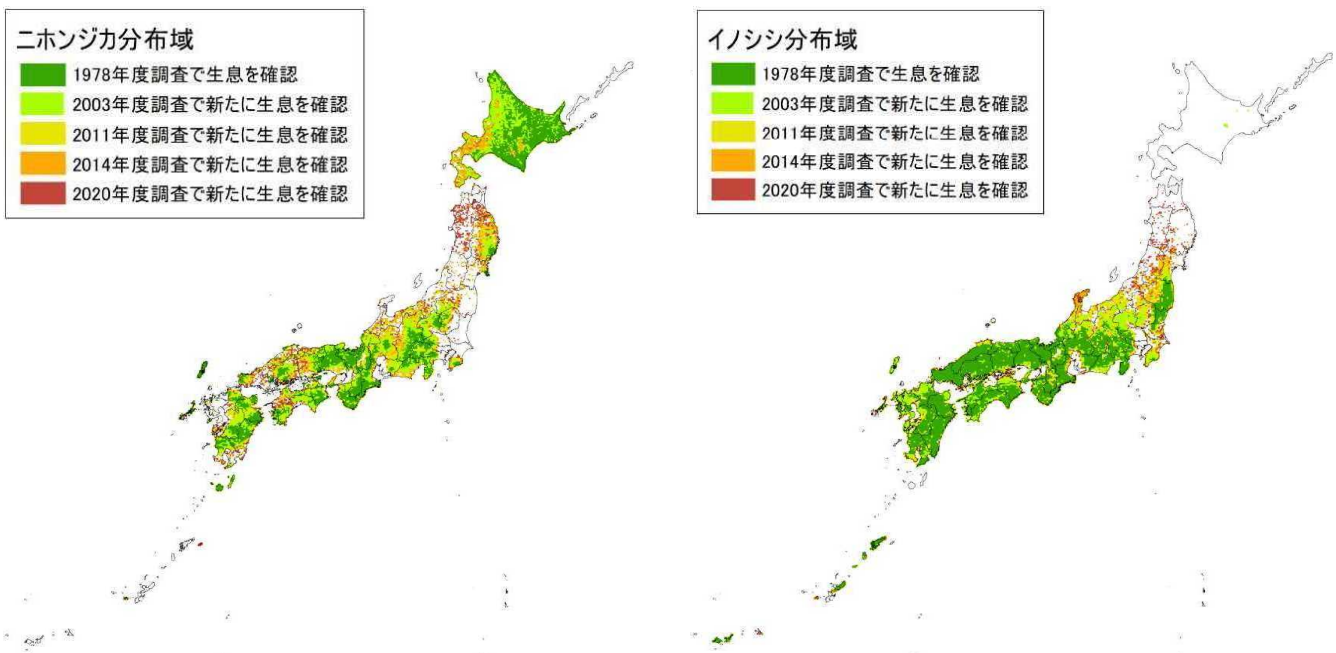
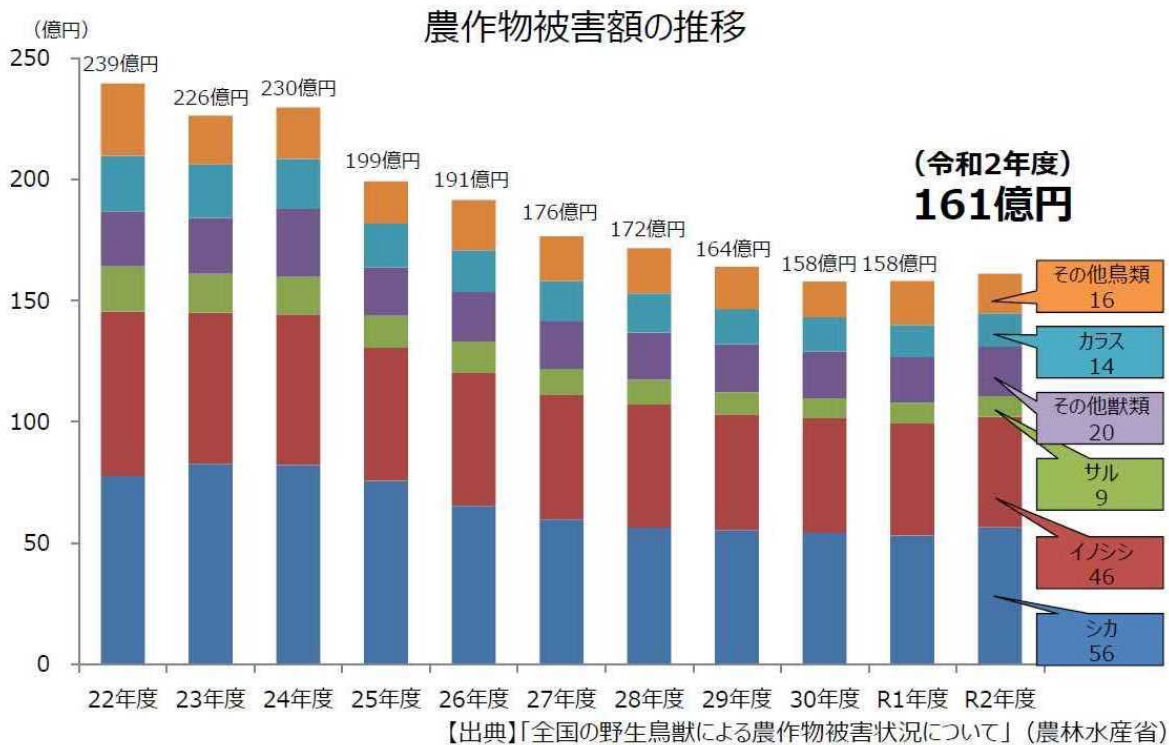


図 主な加害種の生息分布の推移  
左：ニホンジカ 右：イノシシ（環境省 2022）



## 飼料作物に対する鳥獣害

表 飼料作物に対する鳥獣被害金額 (万円) の推移 (農水省 2022より作成)

種	令和2年度	令和元年度	平成30年度
鳥類			
カラス	8723 (3.3)	7989 (2.9)	10440 (3.7)
カモ	340 (0.1)	137 (0.1)	6 (0.0)
ハト	205 (0.1)	114 (0.0)	153 (0.1)
その他鳥類	1885 (0.7)	2797 (1.0)	2384 (0.8)
獣類			
シカ	225367 (85.5)	234319 (86.3)	238800 (84.9)
クマ	17093 (6.5)	16343 (6.0)	17855 (6.3)
イノシシ	7010 (2.7)	7300 (2.7)	7835 (2.8)
アライグマ	968 (0.4)	1210 (0.4)	1846 (0.7)
その他獣類	2148 (0.8)	1359 (0.5)	1863 (0.7)
合計	263739 (100)	271568 (100)	281182 (100)

侵入防止対策

徹底的に食べさせない

生息環境管理

人や農地に馴れさせない

農地周辺で安心させない

個体数管理

加害個体の捕獲

4

## 侵入防止対策、生活環境管理の現状

### 侵入防止対策

物理的防除：ワイヤーメッシュやトタン板などで農地侵入を防ぐ

心理的防除：電気柵などで加害動物にショックを与えて忌避効果を得る

### 生活環境管理

誘因物の除去：放棄果樹管理や生ごみ片づけ等、被害にならない誘因物を除去

侵入経路の管理：雑草が繁茂した場所の伐採や柵周辺の整備等

➡ 農家や地域に向けた行政支援のもと、広い範囲に普及

侵入防止対策と生活環境管理の組み合わせで

適切な実施、維持管理がされていれば高い侵入防止効果が実証されている

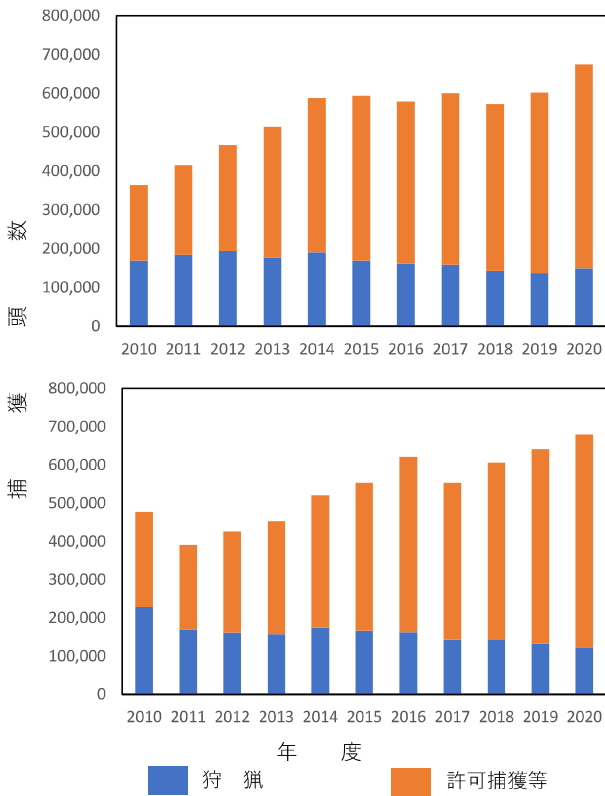
→手軽にアクセスできる資料として農林水産省Webページに記載

5

## 当日の発表において図表追加

6

## 個体数管理の現状と課題



### 抜本的な鳥獣捕獲強化対策

- 捕獲に関わる支援の充実化
- ICTを活用した省力的な捕獲
- 新規捕獲者の増加、人材育成

主な加害種の捕獲数推移は概ね右肩上がり  
 狩猟よりも許可捕獲等が捕獲の大部分  
加害個体を対象とした捕獲？

図 捕獲頭数の推移 (環境省 2022)  
 上：シカ、下：イノシシ

7

当日の発表において図表追加